同棲(どうせい)から始まるオタク彼女の作りかた
3
Dousei kara hajimaru Otaku kanojo no tsukurikata.3
メロンブックス限定購入特典
書き下ろしSSリーフレット
村上凛
イラスト／館川まこ
ファンタジア文庫

「新しい動画見たよ！　メイクのやつ！　めっちゃ再生数伸びてない？」
「もうすぐ一万再生とかっしょ？　やばくない？　ミホも人気YouTuberの仲間入りかー」
「今のうちにサインもらっとくか！　転売用に！」
「もー、やめてよ。全然まだまだだって」
休み時間。
わたし三波エレナは、クラスの子たちの話し声に思わず聞き耳を立てていた。
うちのクラスにもYouTuberがいて、最近よくそういう話題が耳に入ってくる。
「ってかすごいよねー。ほぼ毎日投稿してんじゃん。いつ寝てんの？」
「ミホがテレビとか出るようになる日もそのうちくんじゃない？」
YouTuberの話題が出ることはあっても、バーチャルYouTuberの話が教室内で出ることはあまりない。男子の間ではたまに聞くけど、幸いにも、わたしが声優を務める『西園寺エミリー』の話題はまだ耳にしたことはない。
正体がバレてはいけないのだから、それはとてもありがたいことだった。だけど……たまに少し、寂しくもなる。
運営会社との契約で、正体をバラしてはいけない。だから、わたしがバーチャルYouTuberをやっていることを知っているのは、家族と関係者以外では一人しかいない。
ああやって、友達に動画を見てもらって、感想を言ってもらえることが、正直羨ましかった。どんなに仲のいい子にも話してはいけないから、よく『エレナっていつも忙しそうだけど何してるの？』なんて言われてしまう。周りの友達にオタクがいないこと、そしてまだ端役の声優しかできていないことから、声優をやっていることも周りに言っていないから、尚更だ。
声優としてもう少しちゃんとした仕事ができるようになったら、声優の仕事の方は友達に話してもいいかな、とは思っているけれど、バーチャルYouTuberの方はまた話が別だった。わたしがどんなに頑張って、『西園寺エミリー』が有名になっても、親しい人に動画を見てもらうことはできない。感想を聞くことはできない。
そのことがときどき……すごく、寂しく感じる。
「……！」
そのとき、スマホが光った。画面には、新着のラインが届いていた。
『一ヶ谷　景虎：新しい動画見たよ！　三波さんって普通のゲームも結構上手いんだね！　根気よく頑張ってて面白かった！』
一ヶ谷先輩からのラインを読んで、自然と口元が緩んだ。心が温かくなっていくのを感じる。
クラスの友達に自分の頑張りを見てもらえないことは寂しい。だけど……わたしにはこうして、動画を上げたらすぐに感想をくれるようほど応援してくれている人が、身近にいる。
正体を知られてしまったのは偶然だったけれど、そのことが、いつの間にか、わたしにとってすごく救いになっていた。
今度会ったら、またVTuberの話してもらえるかな？　次にどんなゲームをやったらいいと思うか、一ヶ谷先輩の意見が聞いてみたいな。
ニヤけてしまいそうになるのを堪えながら、一ヶ谷先輩にラインの返信を打った。

Dousei kara
hajimaru
Otaku ka
tsukurika
『同棲から始まるオタク彼女の作りかた 3』
© 村上凛・館川まこ
メロンブックス限定購入特典
NOT FOR SALE